

## 研究結果報告書

### 研究結果

「満洲電業株式会社」は「満洲国」の第3大特設の会社である。本研究の内容構成は以下の通りである。

1. 電力産業政策。産業政策とは、政府の誘導によって産業間の資源を配分したり、産業間における私営企業の経営活動に対して、適当な戦略変化を施行させる政策である。本研究は発電、電力託送、小売の3つリンクから「満洲国」における電力産業政策を考察して、データを分析して、研究成果として『「満洲国」における電力産業政策』（『外国問題研究』2012年9月）という論文を公表した。

2. 代表性電力施設。「満洲国」における代表性電力施設は大連浜町発電所、撫順発電所、「新京」発電所、本溪湖煤鉄公司発電所、昭和製鋼所発電所、水豊発電所、鏡泊湖水力発電所、松花江豊満発電所、水（水豊）鞍（鞍山）送電線、東（安東）連（大連）送電線、豊（豊満）撫（撫順）送電線、鞍（鞍山）営（営口）送電線や阜（阜新）営（営口）送電線などの機構（0.3万KVA以上の変電所）が含まれている。本研究は「新京」発電所と松花江豊満発電所を考察対象として、研究成果を『「新京」発電所と「満洲国」豊満発電所』（中国・厦門大学『全国日本経済学会2012年会論文集』、2012年11月9—11日）にして公表し、同会では口頭発表をした。

3. 「満洲電業株式会社」研究。本研究は主に3つリンクからなる。①は「満洲国」経済統制政策と電力独占；②「満洲電業株式会社」の設立・発展及び終結；③「豊満ダム」の植民的動機と客観的効果。研究成果は計5万字近くに上って、『「満洲国」における電力産業』という論文を完成して、『偽満歴史文化と現代中日関係・上巻』（中国・商務印書館2013）に収録されていた。

最後にいつも本研究に学術助成を支えてくれた住友財団に感謝の念を捧げなければならぬと思う。

### 研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表（題名・発表者名・会議名・日時・場所等）

論文（題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等）

井志忠：『「満洲国」における電力産業政策』、『外国問題研究』、2012年9月。

井志忠：『「新京」発電所と「満洲国」豊満発電所』、『全国日本経済学会2012年会論文集』、2012年11月。

書籍（題名・著者名・出版社・発行時期等）

井志忠：『「満洲国」における電力産業』（5万字）、『偽満歴史文化と現代中日関係・上巻』、中国・商務印書館、2013年。